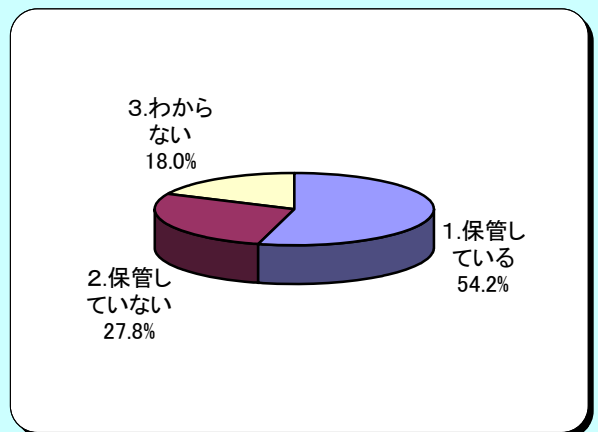


# 洪水・内水ハザードマップについて

名古屋市では浸水対策の根幹である河川や下水道の整備を実施しておりますが、多大な事業費と長時間を要する事業であるために、その対策規模には限界があります。近年は河川や下水道の整備レベルを超える大雨が発生しており、地域を大雨から守るためには、市民のみなさまの自助・共助も重要となります。そこで、ご自宅周辺の浸水の可能性や、いざという時の避難行動についてあらかじめ把握していただき、日ごろから水害に備えてもらうことを目的に、「洪水・内水ハザードマップ」を作成しました。広報なごや6月号とともに全戸配付し、インターネット上にも掲載しています。これらのことについて、市民のみなさまのご意見・ご感想をおたずねするものです。

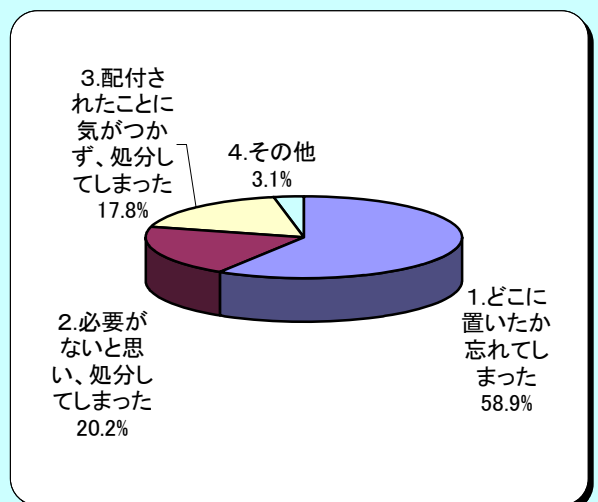
**質問1** あなたは、平成22年6月に広報なごや特集号として各戸配付された「洪水・内水ハザードマップ」をわかるところに保管していますか。

1.保管している	193	54.2%
2.保管していない	99	27.8%
3.わからない	64	18.0%
合計	356	



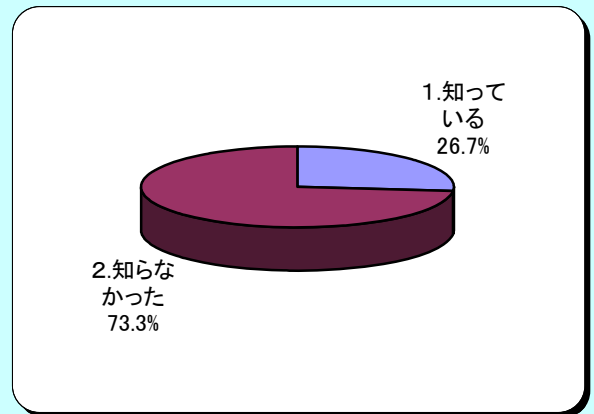
**質問2** 質問1で、「2」と「3」を選択された方のみにおたずねします。保管していない理由は何ですか。

1.どこに置いたか忘れてしまった	96	58.9%
2.必要がないと思い、処分してしまった	33	20.2%
3.配付されたことに気がつかず、処分してしまった	29	17.8%
4.その他	5	3.1%
合計	163	



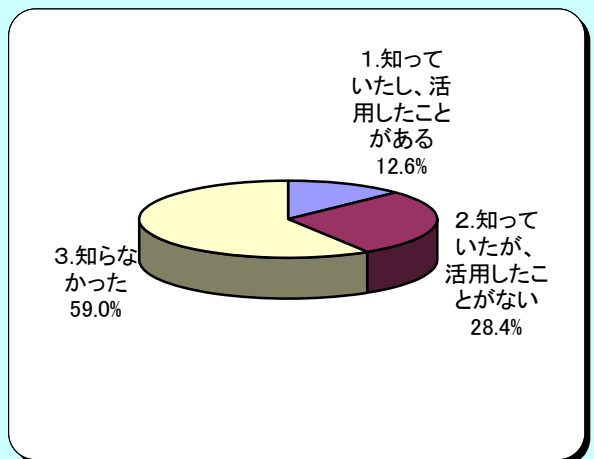
質問3 あなたは、「洪水・内水ハザードマップ」をなくした場合などに、区役所で配付していることをご存じですか。

1.知っている	95	26.7%
2.知らなかった	261	73.3%
合計	356	



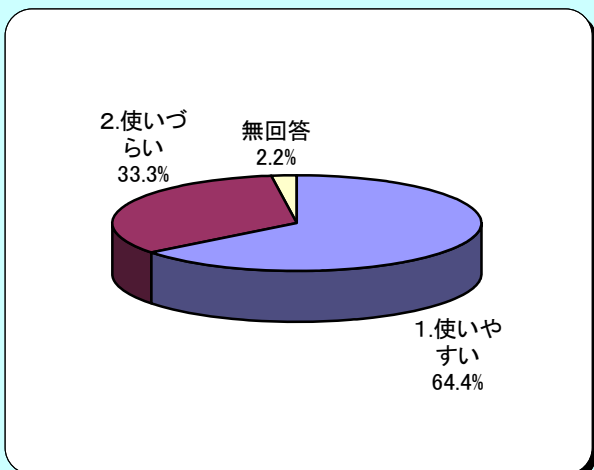
質問4 あなたは、全区の「洪水・内水ハザードマップ」が名古屋市公式ウェブサイトや上下水道局のホームページにも掲載されていることをご存じですか。

1.知っていたし、活用したことがある	45	12.6%
2.知っていたが、活用したことがない	101	28.4%
3.知らなかった	210	59.0%
合計	356	



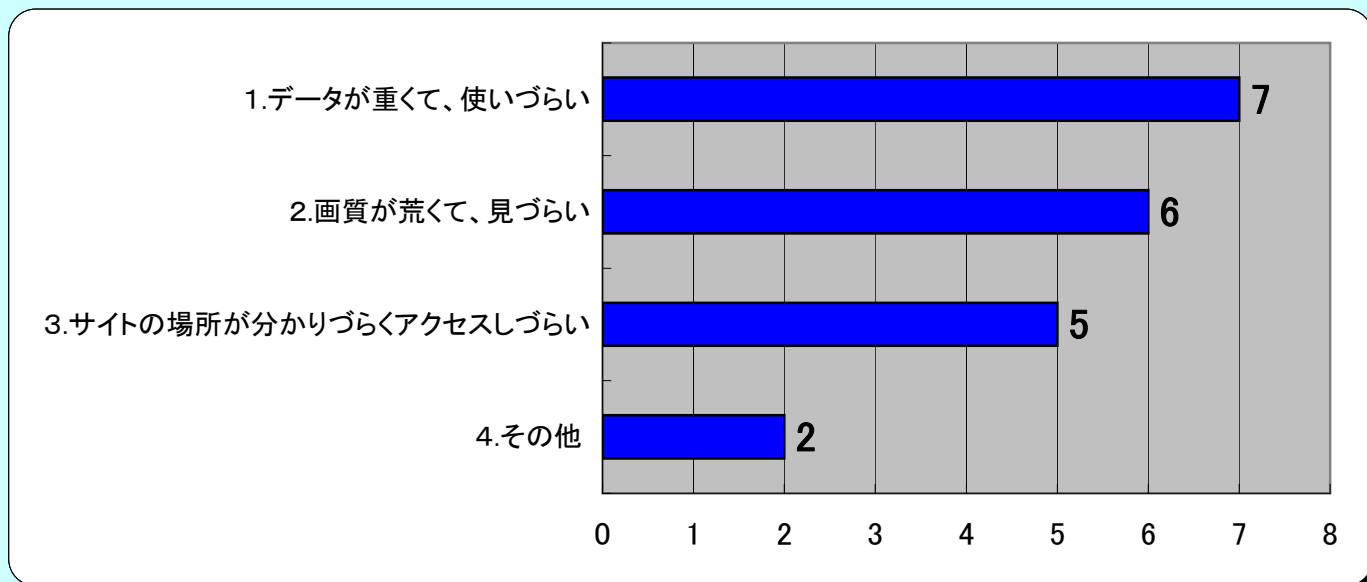
質問5 質問4で「1」を選択された方のみにおたずねします。名古屋市公式ウェブサイトや上下水道局のホームページに掲載されている「洪水・内水ハザードマップ」をご覧になってどのように感じられましたか。

1.使いやすい	29	64.4%
2.使いづらい	15	33.3%
無回答	1	2.2%
合計	45	



**質問6** 質問5で「2」を選択された方のみにおたずねします。使いづらかった理由は何ですか。(複数回答可)

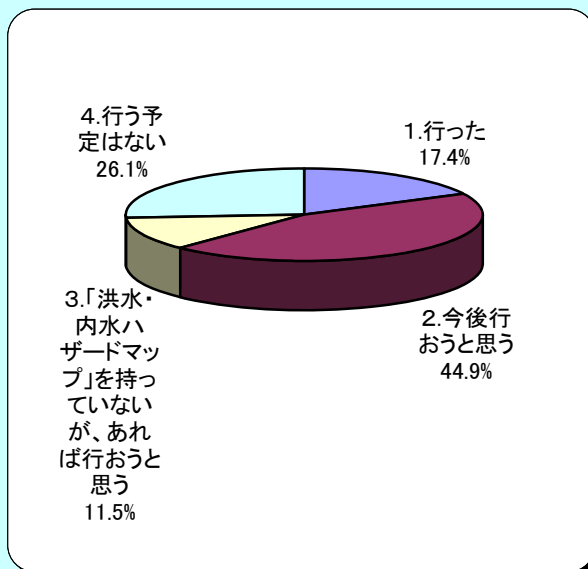
1.データが重くて、使いづらい	7	46.7%
2.画質が荒くて、見づらい	6	40.0%
3.サイトの場所が分かりづらくアクセスしづらい	5	33.3%
4.その他	2	13.3%
合計	20	



**「4.その他」を選んだ方の主な意見**  
 自宅を確認したらどこか詳細は確認できない(荒くなる)  
 もう少し拡大図があった方が使い易い。

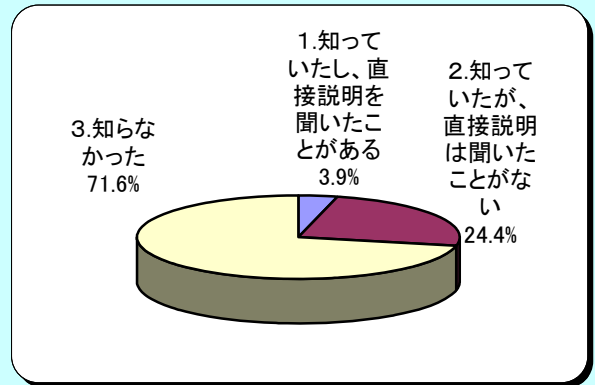
**質問7** あなたは、「洪水・内水ハザードマップ」を使って、地域やご家族で防災訓練や避難方法の話し合いをしたり、水害に対する日ごろの準備などを行ったりしましたか。

1.行った	62	17.4%
2.今後行おうと思う	160	44.9%
3.「洪水・内水ハザードマップ」を持っていないが、あれば行おうと思う	41	11.5%
4.行う予定はない	93	26.1%
合計	356	



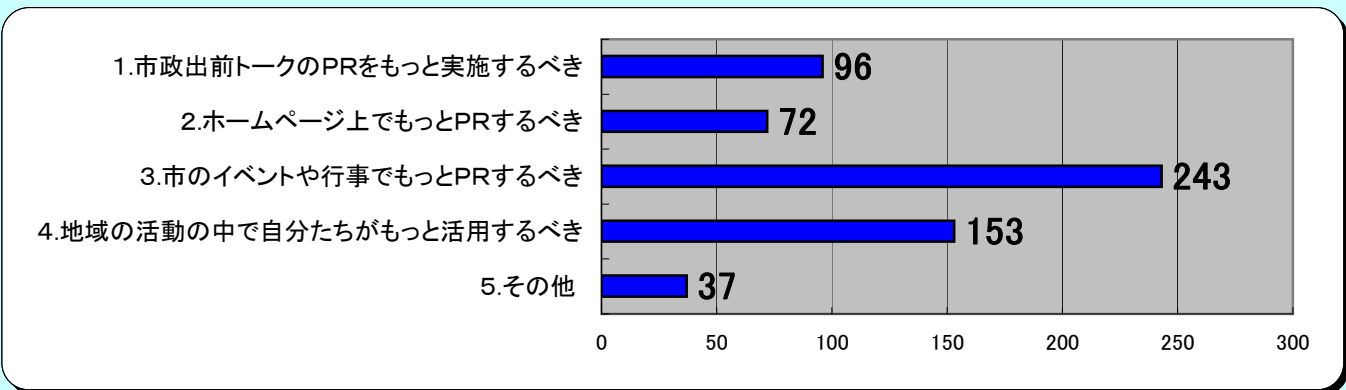
**質問8** あなたは、地域の自主防災訓練や市政出前トーク、行政が主催する各種イベントなどで「洪水・内水ハザードマップ」の説明・PRを実施していることをご存じですか。

1.知っていたし、直接説明を聞いたことがある	14	3.9%
2.知っていたが、直接説明は聞いたことがない	87	24.4%
3.知らなかった	255	71.6%
合計	356	



**質問9** 「洪水・内水ハザードマップ」をもっと広く活用するために、どのようにしていくべきだと思いますか。(複数回答可)

1.市政出前トークのPRをもっと実施するべき	96	26.7%
2.ホームページ上でもっとPRするべき	72	20.0%
3.市のイベントや行事でもっとPRするべき	243	67.5%
4.地域の活動の中で自分たちがもっと活用するべき	153	42.5%
5.その他	37	10.3%
合計	601	

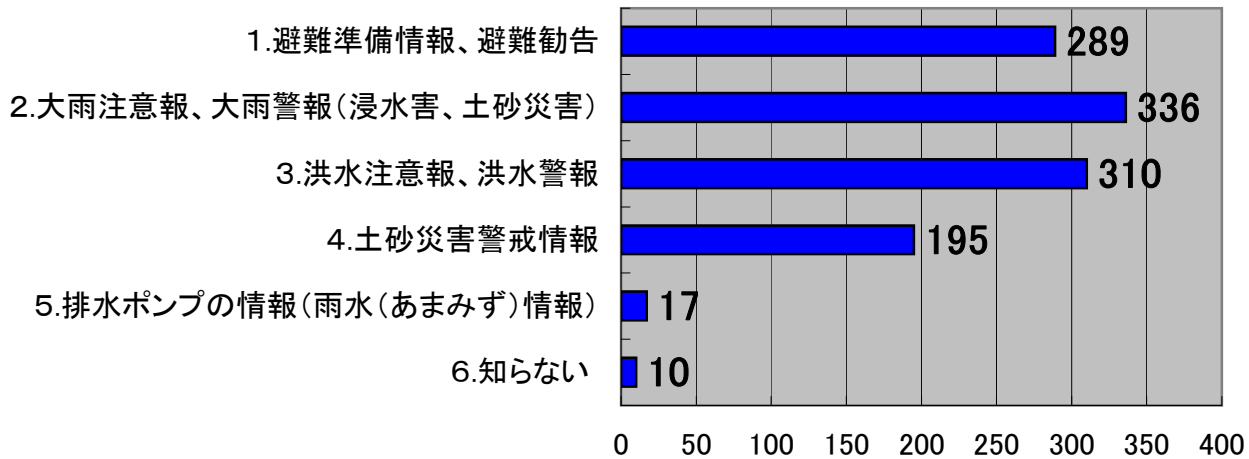


**「5.その他」を選んだ方の主な意見**

- 日ごろ身につまされて洪水を感じることはないので、東海豪雨の時期に特集されるニュースや洪水の被害があったときにPRするなど、常にPRするのではなく、タイムリーに集中的にPRすると良いと思う。
- 小学校の授業教材として使用し、地域の状況を理解させる。
- 地域の掲示板などで案内したり、イベントの際などは避難所に旗などを置いてPRすればよいと思います。
- ハンディな大きさの冊子に、してほしい。
- 出前トークやイベントにでかけられない人もいるので、区役所や図書館、地下鉄や市バス、人が集まってくる場所(栄や名古屋駅)などで、その種のPRをすべき。より多くの人にアピールをしなければならないと思う。
- 実践に即した訓練を実施するべき。
- 家にいるときに洪水・内水に合うとは限らない。出先でも、避難場所がすぐわかる掲示が必要。
- 町内の自主防災組織の勉強会としてまず、防災役員や町内の組長の皆さんに説明会等を積み重ねて行くべき。

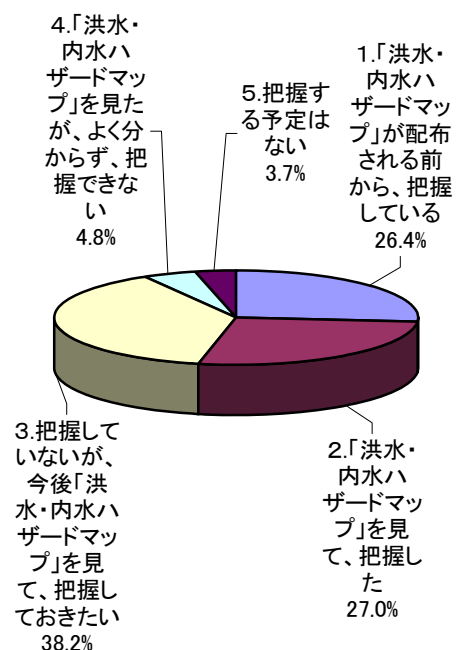
質問10 下記の洪水時や大雨時の情報のうち、ご存じのものをお選びください。(複数回答可)

1.避難準備情報、避難勧告	289	81.2%
2.大雨注意報、大雨警報(浸水害、土砂災害)	336	94.4%
3.洪水注意報、洪水警報	310	87.1%
4.土砂災害警戒情報	195	54.8%
5.排水ポンプの情報(雨水(あまみず)情報)	17	4.8%
6.知らない	10	2.8%
合計	1157	



質問11 洪水時や大雨時に、いつ、どこへ避難したらいいのか、把握していますか(把握する予定はありますか)。

1.「洪水・内水ハザードマップ」が配布される前から、把握している	94	26.4%
2.「洪水・内水ハザードマップ」を見て、把握した	96	27.0%
3.把握していないが、今後「洪水・内水ハザードマップ」を見て、把握しておきたい	136	38.2%
4.「洪水・内水ハザードマップ」を見たが、よく分からず、把握できない	17	4.8%
5.把握する予定はない	13	3.7%
合計	356	



**質問12** 全体をとおして、「洪水・内水ハザードマップ」について、ご意見ご要望がありましたら、自由にお書きください。

**【ハザードマップの紙面について】**

地図上に避難場所の名称や駅などの目印になる物の記入が無くわかりにくい。書き込みすぎると見づらいのは解かりますが、シンプルすぎても見づらいと思います。〇〇公園、大きなスーパーなど要所要所の記述をしてほしい。

見づらいかもしれないが、携帯用に持ち運びやすかったり家の中に貼っておけたりする縮小版を作ってはどうか。大きいものは、一般家庭内では目につく場所には貼りづらい→どこかにしまいこむ→見ない、ということになるのではないのでしょうか。

実際に私たちが住んでいるところがどのくらい危険であるかが、色分けによりとてもわかりやすく、本当にそのくらいの被害がおきる可能性があるという危機感が生まれました。

実際水害が起こるとしたらどれくらいの被害が予想されるか全く分からなかったので、ハザードマップによってほしいの予想が立てられてよかったです。

マップを見ることで視覚的に「どこに避難するのか」「どの地域が浸水しやすいのか」といった初歩的なことがよくわかってよかった。

ホームページから見る時に、名古屋市全体の地図を載せてカーソルを当てた所が拡大される仕組みにした方が見やすいと思う。他の区のものも見たいが、またページを戻って見ないといけないのが使いづらいと思いました。

**【掲示・配布方法、活用方法について】**

家にいるとは限らないので、地下鉄の駅、図書館、デパート、スーパーなどにも用意してあると良いと思います。

地域の学区や町内などでハザードマップを使った訓練や情報伝達をもっとしっかりやらなければいけない。地域の自主防災会に活用したい。

子どもがいる家庭であれば、学校を通じてハザードマップを配れば必ず目にとまると思うし、家庭で話す機会が増えると思う。

**【PR方法について】**

もっとイベント等でPRしていただきたいです。

梅雨や台風シーズンには、地下鉄駅前等で街頭PRしてはどうか？

わかりやすくてよいと思うが印象が薄いので、大雨の翌日など、危機感の高い日にPRすると効果的かと思う。

重要な事が記載されたものだと分かっているが、いまいち普及されておらず、自身も含めて市民の関心度が低いことが問題なのだと今回のアンケートで知った。今後、さらに普及できるような工夫を期待します。

興味がある人は積極的に把握したりしますがやはり無関心・無警戒の人にはもっと積極的なPRが必要と思われる。

転入者の転入手続きのときに手渡ししてほしい。また、保育園入所手続きなど、区役所で行う手続きにこられた市民にハザードマップを見せながら「持っていますか？」と一言声がけをしてほしい。

こういう情報を子供やお年寄りにしっかり浸透させる方法が重要だと思います。

**【ハザードマップを通じて】**

今まであまり意識したことが無かったが、事が起きてからでは遅いので、もう一度ハザードマップを見て再確認すべき点が多くありそう。

「洪水・内水ハザードマップ」を保管しているだけでなく、家族間での話し合いが重要だと感じました。

「洪水・内水ハザードマップ」を見て、自分たちで、何が出来るが、何をすべきか、もっと理解すべきと感じる

一番大事なのは家族で話し合うことだと思います。ハザードマップを見ながら避難場所の確認や、数日間の食料、水の備蓄を行うなどの準備が大切だと思います。